エコアクション21
認証番号0010347

2022年度版

環境経営レポート

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日
発行日：2023年6月20日
（改訂：2023年7月31日）

ネクスト環境コンサルタント株式会社

〒992-0119　山形県米沢市アルカディア1丁目808番地17

TEL0238-29-0025　　FAX0238-29-0015
http://www.next-enviro.co.jp

～　目　次　～

0．SDGs（当社の事業活動に関連するゴールとターゲット）・・・・・p1～2

1．環境経営方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p3

2．組織の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p4～5
　2－1．事業者名及び代表者氏名
　2－2．所在地
　2－3．環境管理責任者及び担当者連絡先
　2－4．設立年月日
　2－5．資本金
　2－6．事業活動の内容と対象サイト（認証・登録範囲）
　2－7．事業の規模
　2－8．環境マネジメントシステム実施体制

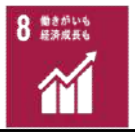
3．環境経営目標とその実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p5～15
　3－1．環境負荷の現状（2022年度環境負荷自己チェック結果より）
　3－2．環境経営目標（単年度・中期）と達成状況
　3－3．2023年度の環境経営目標

4．環境経営計画と取組結果並びに次年度の取組内容　・・・・・・・・ p15～16
　4－1．環境経営計画の取組状況の評価（2022年度）
　4－2．2023年度の取組内容

5．環境関連法規等の順守状況，訴訟等の有無　・・・・・・・・・・・・・ p17
　5－1．適用を受ける環境関連法規等とその順守状況
　5－2．訴訟等の有無

6．代表者による見直しの結果（経営者のコメント）　・・・・・・・・・・ p18

私たちは，SDGｓとの関連性を強く意識してEA21の取組を推進していきます。

当社の事業活動に関連するゴールとターゲット	
	3.9：**有害化学物質，並びに大気，水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少**させる。
	4.4：**技術的・職業的スキル**など，雇用，**働きがいのある人間らしい仕事**及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
	5.B：**女性の能力強化促進**のため，ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する。
	6.3：**汚染の減少**，投棄の廃絶と**有害な化学物・物質の放出の最小化**，未処理排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の大幅増加により，水質を改善する。 6.6：山地，森林，湿地，河川，帯水層，湖沼を含む**水に関連する生態系の保護・回復**を行う。
	7.2：世界の**エネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大**させる。 7.3：世界全体の**エネルギー効率の改善率を倍増**させる。
	8.1：**一人当たり経済成長率を持続**させる。 8.2：**多様化，技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成**する。
	9.4：**資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大**を通じたインフラ改良や産業改善により，持続可能性を向上させる。
	11.6：**大気の質**及び一般並びにその他の**廃棄物の管理**に特別な注意を払うことによるものを含め，**都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減**する。
	12.2：**天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用**を達成する。 12.4：**製品ライフサイクルを通じ，環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現**し，**人の健康や環境への悪影響を最小化**するため，**化学物質や廃棄物の大気，水，土壌への放出を大幅に削減**する。 12.5：**廃棄物の発生防止，削減，再生利用及び再利用**により，**廃棄物の発生を大幅に削減**する。
	13.3：**気候変動の緩和，適応，影響軽減及び早期警戒に関する教育，啓発，人的能力及び制度機能を改善する。**
	14.1：**海洋ごみや富栄養化**を含む，特に**陸上活動による汚染**など，あらゆる種類の**海洋汚染を防止し，大幅に削減する。** 14.3：あらゆるレベルでの科学的協力の促進などを通じて，**海洋酸性化の影響を最小限化**し，対処する。
	15.1：**森林，湿地，山地**及び乾燥地をはじめとする**陸域生態系と内陸淡水生態系**及びそれらのサービスの**保全，回復及び持続可能な利用を確保**する。 15.2：あらゆる種類の**森林の持続可能な経営の実施**を促進し，**森林減少を阻止し，劣化した森林を回復**し，世界全体で**新規植林及び再植林を大幅に増加**させる。 15.4：持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため，**生物多様性を含む山地生態系の保全**を確実に行う。 15.5：自然生息地の劣化を抑制し，**生物多様性の損失を阻止し，絶滅危惧種を保護**し，また**絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策**を講じる。
	7.17：さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした効果的な公的，官民，**市民社会のパートナーシップを奨励・推進**する。

ネクスト環境コンサルタント株式会社
環 境 経 営 方 針

＜基本理念＞

ネクスト環境コンサルタント株式会社は，環境に係る測定・分析・調査及び排水処理施設の設計・施工その他薬品販売などの事業活動を行っていますが，その過程において，様々な化学物質や電力・化石燃料などを消費し，廃棄物の発生も伴います。環境関連法規等を遵守しつつ，それらの環境負荷を楽しく低減できるしくみを構築運用しながら継続的に改善を進め，さらに，Ｗｅｂ等を活用し，事業活動を広く発信することにより，地域全体に広めてまいります。たとえ自らの取組の成果は小さくても，その活動が連鎖的に広まっていけば，やがて大きな削減効果へとつながっていくものと確信しています。環境保全が重要な経営課題であることを認識し，次世代に美しい自然を残せるよう，企業の社会的責任を果たしていきます。

＜行動指針＞

§ 地球温暖化防止のため，楽しい節電・省エネの取組を考え，実行します。

§ 環境保全・省エネにつながるサービスの創造を行ないます。

§ お客様や地域の環境負荷の低減につながる提案や情報提供を積極的に行います。

§ 自らが環境関連法規等を遵守することは当然のこととし，さらに理解を深め，その意義を利害関係者へと広めていきます。

§ IT技術を活用し，業務の効率化と信頼性の向上を目指します。

§ 社内の整理整頓を心がけ，身近な環境保全を見失わないようにします。

§ SDGs（持続可能な開発のための2030アジェンダ）を意識しつつ，環境問題を幅広く捉えて，行動していきます。

§ 環境経営システムを定期的に見直し，継続的に改善していきます。

制定日　　：2014年10月1日
最終改定日：2020年6月2日

ネクスト環境コンサルタント株式会社

代表取締役　　武田誠一郎

2．組織の概要

2－1．事業所名及び代表者氏名

■ ネクスト環境コンサルタント株式会社　　■ 代表取締役　　武田　誠一郎

2－2．所在地

■ 〒992-0119　山形県米沢市アルカディア1丁目808番地17

2－3．環境管理責任者及び担当者連絡先

■ 環境管理責任者：小西　秀明

■ 連絡担当者：菅野　淳

■ 連絡先：TEL0238-29-0025　FAX0238-29-0015

■ Email：info@next-enviro.co.jp

社屋全景。2階は系列会社の東北警備保障と共用しています。1階は実験室主体で当社が使用しています。2021年2月に増築工事が完成しました。

2－4．設立年月日

■ 2005年（平成17年）4月19日

2－5．資本金

■ １，０００万円

2－6．事業活動の内容と対象サイト（認証・登録範囲）

■ 事業活動の内容：

水質分析，大気測定，土壌・廃棄物分析，微生物検査，作業環境測定，薬品販売，
環境コンサルティング業務，排水処理施設・局所排気装置の設計・施工，一般建設業

■ 対象サイト：本社ならびに建設工事現場

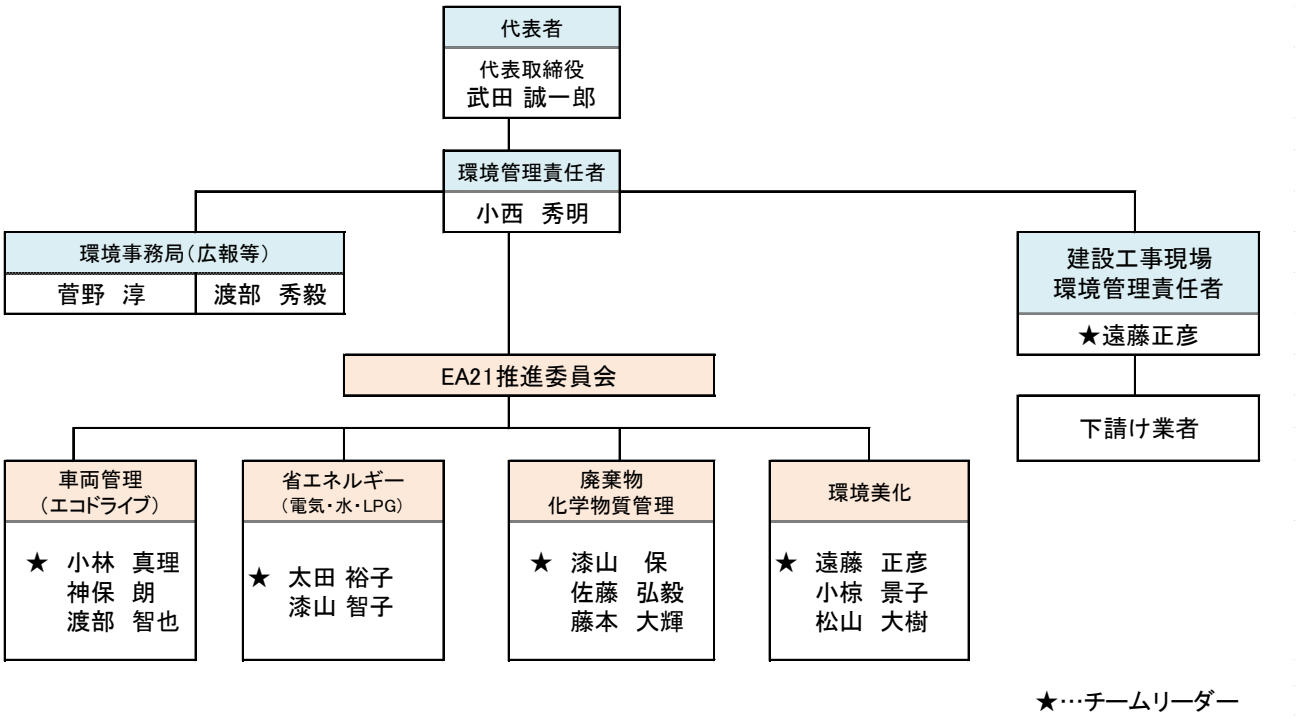
（その他の営業所等の事業所はありません）

2－7．事業所の規模

活動規模:売上高（建設業）	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	千円	154,975（15,600）	173,802（20,300）	175,407（25,800）	294,282（24,000）	335,068（24,000）
従業員（対象／全体）	人	14	15	19	20	24
床面積（1，2階合計）	m²	350.0			601.8	
床面積（1階部分）	m²	177.8			302.3	
建設工事実績	件	9件	19件	19件	31件	63件

※売上高は，当社会計年度（4月～翌年3月）に合わせて集計。また，従業員数は各年度4月1日時点での在籍人数。
※床面積の内，1階部分は，当社が実験室として使用している。2階部分は東北警備保障と共用している。

２－８．環境マネジメントシステム実施体制（2023年4月現在）



★…チームリーダー

3．環境経営目標とその実績

３－１．環境負荷の現状（2022年度環境負荷自己チェック結果より）

■ 二酸化炭素排出量

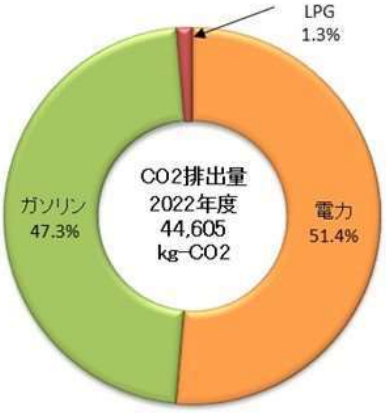
※電力使用に係る二酸化炭素排出係数については，従量電灯Cがリエスパワーネクスト（2017年調整後：0.419），低圧電力が東北電力（2017年調整後：0.513）を用いて集計しています。
※電力使用量については，目標管理上，２階分は，すべて東北警備保障が使用したものとみなし，当社では，１階使用分を対象に目標管理していくこととしました。なお，水とLPGは東北警備保障使用分と合算になります。

１）当社における2022年度（2022.4～2023.3）のCO_2排出量は合計44,605kg-CO_2となっており，平均的な一般家庭12.0軒分の排出量に相当していました。2021年度に比べ11%増加しました。
※2021年度1世帯あたりの平均年間排出量は3,730kg- CO_2（出典：温室効果ガスインベントリオフィス）

２）当社から排出されるCO_2の51.4%は電力の使用に伴うもので22,928kg-CO_2，化石燃料の使用に伴うものが21,677kg-CO_2となっていました。化石燃料の内訳は，ガソリンが21,077kg-CO_2で47.3%，LPGが600kg-CO_2で1.3%となっていました。2020年度比電力使用量は9.7%，ガソリンは14%増加しました。

３）ガソリンは，業務あるいは営業車両の運行に伴い消費します。現場サンプリングや営業関係での使用になるため，業務量に比例して増加します。

＜二酸化炭素排出源（2022年度）＞



4）電力の月別のCO_2発生量は，暖冷房による環境負荷が増大する7～9月と12～2月に増加する傾向がありますが，それほど顕著ではありません。分析業務に使用する機器の負荷の割合が大きいものと思われます。

5）以上のことから，車両運行に伴うガソリンの 消費や実験室等での電気使用量をいかに減らしていくかが取組の重点課題となります。

<月別二酸化炭素排出量（2022年度）>

■ 廃棄物排出量

1）一般廃棄物

一般廃棄物：段ボール類を96kg（2021年度比28%減），可燃ゴミを421kg（2021年度比13%減）排出しました。前者はリサイクルされますが，後者は分析資料の梱包材などが主でリサイクルは難しいのが現状です。この他，紙類（廃棄書類等）225kg（2021年度比32%増）を排出し，すべて，溶融処理（リサイクル）しました。

2）産業廃棄物（特別管理産業廃棄物を含む）

産業廃棄物：特別管理産業廃棄物として，重金属廃液160kg（2021年度比34%減），Mn廃液320kg（2021年度比38%増）を排出しました。この他，廃ガラス類（使用済みのサンプリング容器や破損したガラス器具など）を145kg，廃プラ（ディスポ容器等）を203kg，その他不燃物を44kgを排出しました。売上額（2021年度比13%増）には必ずしも比例してはいないようです。

3）建設系産業廃棄物

建設系産業廃棄物：2022年度，建設系産業廃棄物の排出はありませんでした。

■ 総排水量（水使用量）

東北警備保障との合算での集計となります。地下水等の利用はないことから，上水使用量と総排水量は等しく，491m³使用，2021年度から8.9%減少しました。減少の原因は良く分かりませんが，一昨年の増加が増改築に伴う一時的な増加であったかもしれません。

■ 化学物質使用量

環境分析業務で使用する試薬類でPRTR法※に該当するものは，二硫化炭素，ノルマルヘキサン，アセトニトリル，亜鉛，鉛，マンガン化合物など合計29種類を使用しています。（p10参照）

※PRTR法（化学物質排出把握管理促進法）とは，人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が事業所から環境（大気，水，土壌）へ排出される量及び廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を事業者が自ら把握し国に届け出をし，国は届出データや推計に基づき，排出量・移動量を集計・公表する制度です。

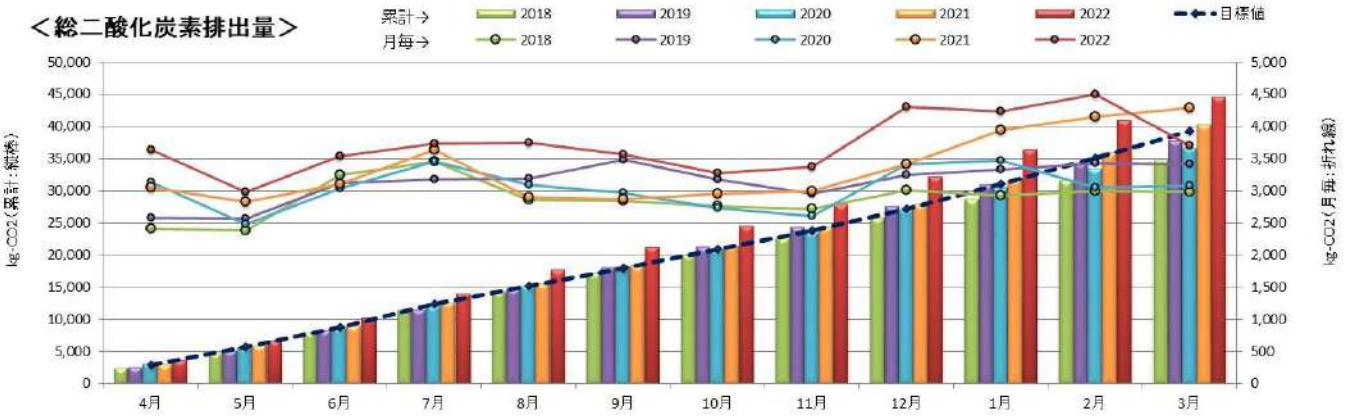
3－2．環境経営目標（単年度・中期）と達成状況

環境経営方針との整合性を図りながら，環境負荷の自己チェック結果を踏まえ，６項目（二酸化炭素，廃棄物，水，化学物質，製品・サービス関連，地域貢献活動対応項目）について，環境経営目標（単年度目標＆3年間の中期目標）とその達成に向けた活動計画を策定し，取組を行いました。達成状況は次のとおりです。

■ 総二酸化炭素排出量

※二酸化炭素排出係数（2017年度調整後）
⇒リエスパワーネクスト：0.419（従量電灯C），東北電力：0.523（低圧電力）

【2022年度目標】 売上高あたりのCO_2排出量を2014年度比39％削減
注）原単位として用いた「売上高」については，本社業務のみを対象とします。（以下同様）
【中期目標（2022～2024）】 同上2014年度比41％削減

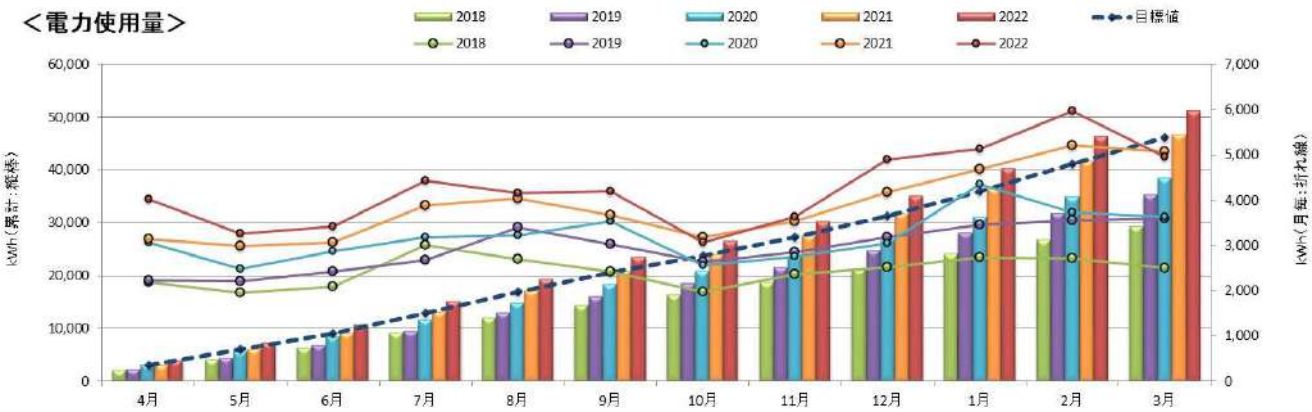


【取組結果】※（）内は売上高100万円あたり
- 2021（2014）年度実績：40,129 kg-CO_2 *(335)*
- **2022年度目標：39,327 kg-CO_2 *(204)***
- **2022年度実績：44,605 kg-CO_2 *(203)***
- 増減量：+4,476 kg-CO_2 *(−132)*
- **増減率：+11.2% *(−39.5%)***

【コメント】排出量では2021年比11.2%増となりましたが，売上高あたりでは2014年度比39.5%減となり，目標を達成しました。その要因は各項目のコメント欄を参照下さい。

■ 電力使用量

【2022年度目標】 売上高あたりの使用量を2014年度比28％削減
【中期目標（2022～2024）】 同上2014年度比30％削減

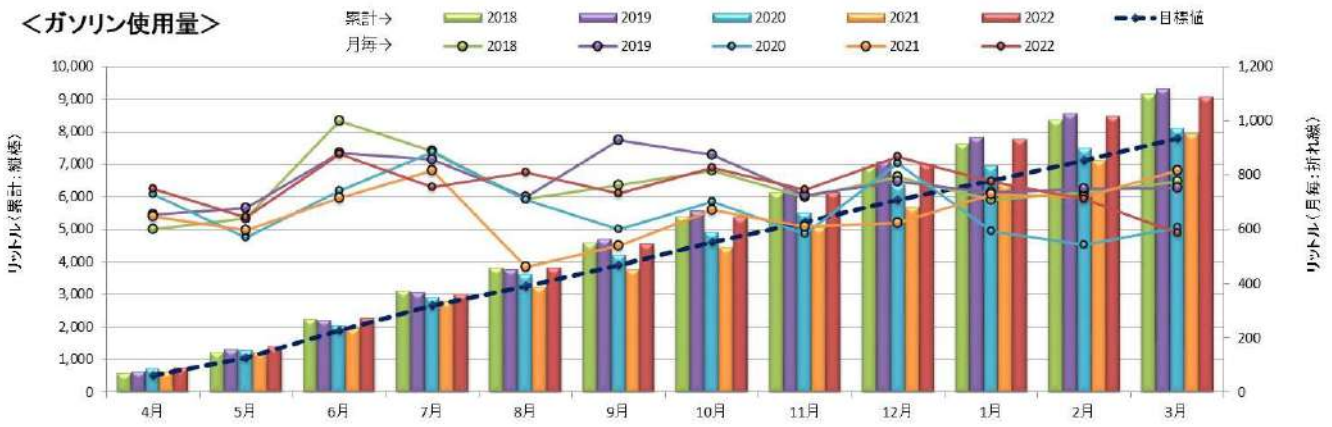


【取組結果】※（）内は売上高100万円あたり
- 2021（2014）年度実績：46,618Wh *(327)*
- **2022年度目標：46,152 kWh *(235)***
- **2022年度実績：51,136 kWh *(232)***
- 増減量：+4,518 kWh *(−34)*
- **増減率：+9.7% *(−28.9%)***

【コメント】増改築後の2021年度を基準値として，目標展開してきましたが2022年度は9.7%増加という結果となりました。主な原因は業務量の増加であると考えますが，冬季の暖房負荷の増加も要因として挙げられます。売上高あたりでの目標は十分に達成されています。

■　ガソリン使用量

【2022年度目標】　売上高あたりの使用量を2014年度比45％削減
【中期目標（2022～2024）】　同上2014年度比47％削減



【取組結果】※（）内は売上高100万円あたり
- 2018（2014）年度実績：9,151ℓ（80）
- **2022年度目標：7,779ℓ（44）**
- **2022年度実績：7,944ℓ（41）**
- 増減量：－73ℓ（－39）
- 増減率：－0.8%　**（－48.5%）**

【コメント】2020，2021年度，ガソリン使用量は比較的少なく推移しましたが，2022年度は大幅に増加し，2018，2019年度並に戻っています。新型コロナウィルス感染対策の規制緩和の影響もあるかもしれません。なお，売上高あたりでは，十分に目標を達成できています。

■　ガソリン（燃費）

【2022年度目標】　車両燃費を2014年度比11％向上
【中期目標（2022～2024）】　車両燃費を2014年度比13％向上

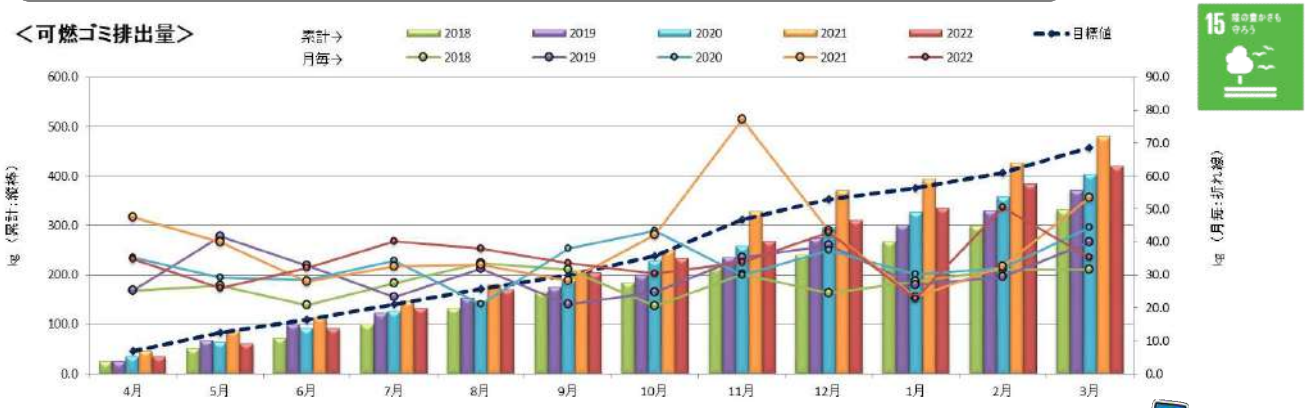
【取組結果】
- 2014年度実績：13.2 km/L
- 2022年度目標：14.7 km/L
- **2022年度実績：15.5 km/L**
- 燃費向上量：+2.3 km/L
- **向上率：+17.8%**

【コメント】比較的燃費が良いミライ―スを購入したこと，相対的に燃費が悪いプロボックス（２台）も前年度よりは燃費が改善したことから，全体的な燃費の向上につながったものと判断します。引き続き「エコドライブ自己チェック」を定期的に実施して，意識の定着化を図っていきます。

個人差がありますが，全体的に右肩上がりになるようにがんばりましょう！

■ 廃棄物排出量（一般廃棄物）

【2022年度目標】 売上高あたりの可燃ごみ排出量を2017年度比22％削減
【中期目標（2022～2024）】 同上2017年度比24％削減



【取組結果】※（）内は売上高100万円あたり
- 2021（2017）年度実績：481.6 kg *（3.2）*
- **2022年度目標：457.5 kg *（2.5）***
- **2022年度実績：420.9 kg *（1.9）***
- 増減量：－61 kg *（－1.0）*
- 増減率：－12.6 % *（－39.3%）*

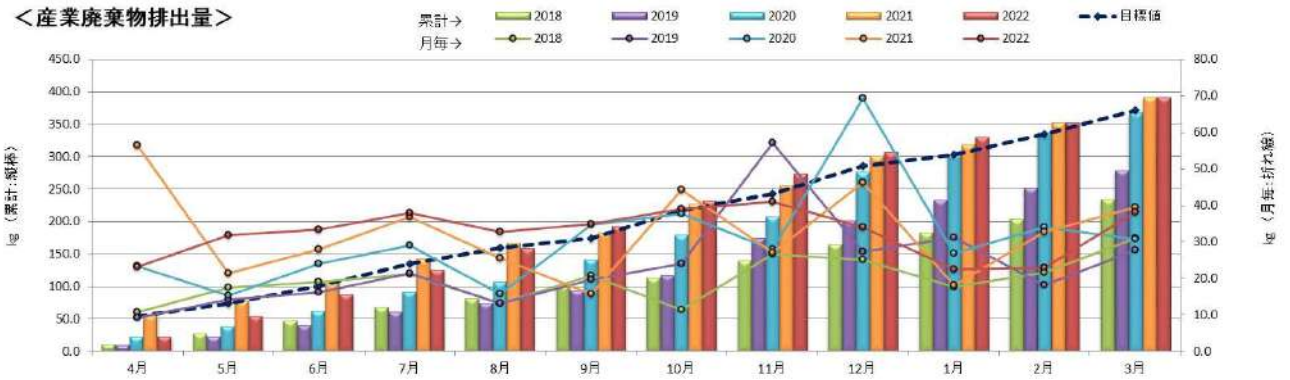
【コメント】増改築後，一時的に大きく増加したものの，2022年度は比較的落ち着いてきました。それでも増改築前のレベルよりは多くなっています。売上高あたりでは大幅に減少しており，目標は十分に達成しています。

■ 廃棄物排出量（産業廃棄物） ※建設産廃を除く

【2022年度目標】 売上高あたりの指定産業廃棄物排出量を2020年度比2％削減

注）廃プラ，廃ガラス，その他不燃物を対象とします。汚泥・重金属廃液・有機溶剤廃液・廃酸・廃アルカリは分析業務に伴って発生するものなので，数値目標の設定は行わず，定性的な管理を行います。

【中期目標（2022～2024）】 同上2020年度比4％削減



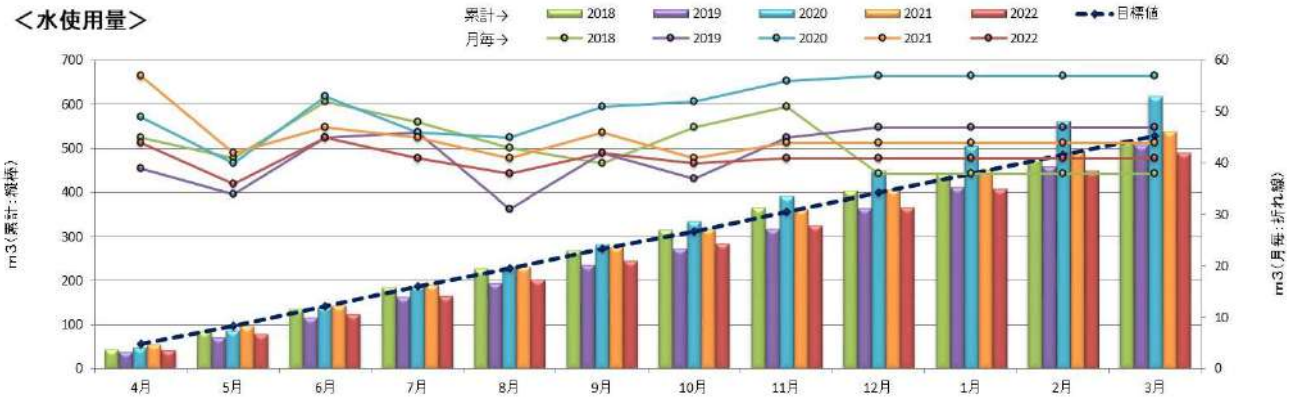
【取組結果】※（）内は売上高100万円あたり
- 2021（2020）年度実績：391.3 kg *（2.1）*
- **2022年度目標：372.1 kg *（2.1）***
- **2022年度実績：391.3 kg *（1.8）***
- 増減量：－0.4 kg *（－0.32）*
- 増減率：－0.1% *（－15.4%）*

【コメント】業務量の増加でディスポの容器の廃棄が増加したことが要因と思われます。売上高当たりでは目標を大きくクリアしています。

■ 水使用量（総排水量）

【2022年度目標】 水道使用量を2021年度比2％削減
【中期目標（2022～2024）】 2021年度比2％削減を維持

＜水使用量＞



※12月から翌年4月分までの冬期間（5ヶ月分）は，検針がないため，5月検針値を按分しました。

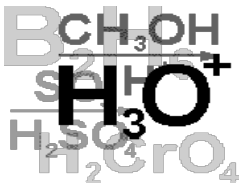
【取組結果】
- 2021年度実績：539 m³
- **2022年度目標：528 m³**
- **2022年度実績：491 m³**
- 増減量：－48 m³
- 増減率：**－8.9％**

【コメント】東北警備使用分も含めて評価しています。実験器具の洗浄用水以外は，ほぼ生活用水での使用となっています。社員数に大きな変化ないものの，2020年度をピークに連続して減少しています。原因は良く分かりません。2020年度は，増改築工事に伴う影響も大きいと判断し，2021年度実績値をもとに目標値の設定を行います。

目標達成！

■ 化学物質使用量（ＰＲＴＲ該当化学物質）

【2022年度目標】 該当品リストの作成と使用量の把握と管理
【中期目標（2022～2024）】 同　上



号番号	物質名	使用量					単位	号番号	物質名	使用量					単位
		2018	2019	2020	2021	2022				2018	2019	2020	2021	2022	
1	亜鉛の水溶性化合物	2.2	2.9	1.2	1.2	1.2	g	281	トリクロロエチレン	0	0	0	0	0	mL
13	アセトニトリル	260	290	110	110	120	mL	282	トリクロロ酢酸	0	0	0	0	0	g
75	カドミウム及びその化合物	2.1	2.4	2.4	2.0	1.9	g	300	トルエン	0	0	0	0	0	mL
82	銀及びその水溶性化合物	2.4	2.4	0	0	0	g	305	鉛化合物	2.1	2.9	1.2	1.3	1.2	g
87	クロム及び三価クロム化合物	1.9	2.4	1.2	1.2	1.2	g	309	ニッケル化合物	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	g
88	六価クロム化合物	2.2	2.3	1.2	1.2	1.2	g	318	二硫化炭素	4.4	3.2	4.3	4.3	9.8	L
113	シマジン	0	0	0	0	0	mL	332	砒素及びその無機化合物	2.1	3	1.2	1.2	1.2	g
132	コバルト及びその化合物	1.9	2.5	1.2	1.2	1.2	g	349	フェノール	12	12	12	12	12	g
150	1,4-ジオキサン	0	0	0	0	0	mL	392	ノルマルヘキサン	58	62	69	59	65	L
186	ジクロロメタン	0	0	0	0	0	mL	400	ベンゼン	0	0	0	0	0	mL
232	N,N-ジメチルホルムアミド	0	0	0	0	0	mL	405	ほう素化合物	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	g
237	水銀及びその化合物	0.29	0.29	0.16	0.15	0.13	g	406	ポリ塩化ビフェニル	0	0	0	0	0	g
239	塩化第二スズ化合物	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	g	411	ホルムアルデヒド	0.4	0	0	0	0	mL
242	セレン及びその化合物	2.2	3	1.2	1.2	1.2	g	412	マンガン及びその化合物	2.2	2.9	1.2	1.2	1.2	g
272	銅水溶性塩	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	g								

【コメント】当社で使用しているPRTR該当化学物質29種類をリストアップし，使用量を把握しています。使用量が多い物質はノルマルヘキサンで65ℓ，次いで，二硫化炭素で9.8ℓとなっていました。ノルマルヘキサンは水質分析に，二硫化炭素は作業環境測定の有機溶剤分析に使用しており，廃棄物として移動もしくは大気に放出されます。両者ともに業務量の増加に伴い，排出移動量も大きく増加しました。

■ 自主設定項目（製品・サービス関連）

1) 環境情報の発信･コミュニケーション推進

【2022年度目標】 年4回社内報（情報誌）を発行

【中期目標（2022～2024）】 同 上

目標達成！

実績：４回　業務多忙の中，「ＮＫＣ通信」をなんとか４回発行できました。社員だけでなく，お客様とのコミュニケーションづくりに活用しています。

エコアクション21 今年も活動中！

環境情報の発信 ～NKC通信より～

お客様に対して，法令改正の情報や新しい分析機器導入や業務内容の紹介などの情報を積極的に発信しています。

石綿関連法令改正 事前調査請け負います!!

2022年4月より、石綿障害予防規則を中心とした石綿関連法令の改正が施行されています。石綿対策の規制の強化が主な内容となります。
もともと石綿の規制は存在していましたが、必要な処置や対応がなされていない事案が散見しており、そのような状況を打開することが今回の改正の背景にあるようです。主な改正は以下のようになります。

◎工事開始前の石綿有無の調査
- 工事対象の全ての部材について、設計図書などの文章と目視にて事前調査を行い、結果の3年間保存を義務化。
- 事前調査は特定の要件を満たした者が実施。

◎工事開始前の労働基準監督署への届出
- 石綿含有保温材等の除去等工事の計画の届出義務化。
- 一定規模以上の建築物や工作物の解体・改修工事については、事前調査の結果の届出義務化。

◎除去工事に対する各種規制強化
- 石綿を含む特定素材等を除去や破砕する工事は、作業場の隔離が義務化。
- 工事完了後、作業場の隔離を解く前に、有資格者による石綿等の取り残しが無いことの確認を義務化。

◎写真等による作業の実施状況の記録
- 工事の実施状況を写真等で記録、3年間保存を義務化。

石綿・アスベストとは？

石綿(いしわた・せきめん)/アスベストとは天然に存在する鉱物繊維のことです。鉱石の種類ごとに複数の物質が存在し、日本ではクリソタイルやクロシドライト、アモサイトなど6種類が主に使用されていました。

竹取物語の火鼠の皮衣は石綿ではないかという説があったり、平賀源内が石綿から火浣布を作り江戸幕府に献上した逸話があったりと、日本でも古くから登場する物質です。

石綿は耐久性や耐熱性、電気絶縁性などに優れており、尚且つ加工しやすく安価で利用でき、かつては建築物をはじめ、電気製品、自動車、船舶など幅広い製品に使用されてきました。

しかし肺がん等の健康被害を引き起こすことが問題となり、2006年(平成18年)に製造・使用が禁止となりました。ですが禁止前に建てられた建築物等には、今でも石綿を含む素材が存在する可能性があり、解体時には対策が必要な場合があります。

今後は、建築物や工作物の解体･改修工事を実施する際、一部例外を除き、工事前に事前調査を行う必要があります。

事前調査は特定の要件を満たした者のみが実施できます。

① 特定建築物石綿含有建材調査者
② 一般建築物石綿含有建材調査者
③ 一戸建て等石綿含有建材調査者
④ 令和5年9月までに日本アスベスト調査診断協会に登録された者

弊社の武田、遠藤、漆山、小西の4名が責任をもって調査いたします！

2) 採算性の向上（分析内製化による外注費の削減及び機器自動化による労働時間削減）

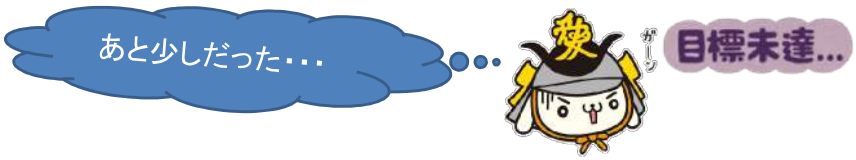
【2022年度目標】　時間当たり限界利益値※を対前年度比5％増

【中期目標（2022～2024）】　対前年度比5％増

※限界利益＝（売上高－外注費等変動費）÷総労働時間

【取組結果】

- 2021年度実績：5,130 円/h
- 2022年度目標：5,380 円/h
- 2022年度実績：5,249 円/h
- 増減量：119 円/h
- 増減率：+2.3%



3) 改善提案　※環境以外でも可

【2022年度目標】　1人毎月1件以上提案

【中期目標（2022～2024）】　同上を継続

環境だけでなく，業務の効率化，５Ｓ推進，安全衛生，なんでもＯＫ。質より量，とにかく出すことが大切。

2022年度実績
125件

業務改善活動

社員それぞれで取り組み中です！！

照明スイッチーエリアの「見える化」

配置図と照明のスイッチを色分けして，使用していないエリアは消灯するようにしました。

検体採取用道具箱の整備

アスベスト検体採取で使用する工具類をコンパクトに収納しました。準備に要する時間の短縮，忘れ物の防止，省スペースに役立っています。

器具洗浄「見える化」

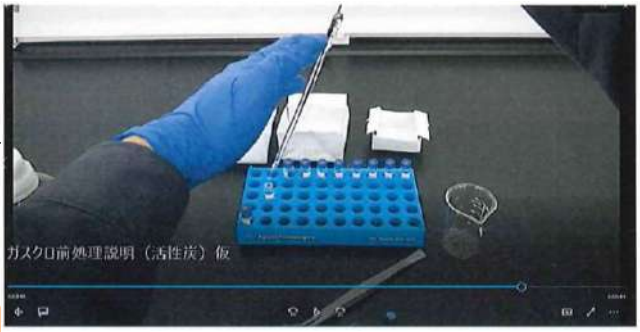
器具洗浄用バケツに表示がなく，誤って投入してしまう恐れがあったので，テプラで酸洗浄液，アルカリ洗浄液などの表示をしました。

器具置場の表示変更

（洗浄液に）「沈める器具」，「沈めない器具」どちらかのカゴが一杯になると，混在してしまう…

状況に応じて，フレキシブルに対応できるよう「沈める器具」，裏返すと「沈めない器具」と表示が変わるように工夫した！

作業マニュアル動画を作成



文字と写真では伝わりにくい分析操作も動画を見るだけで理解できるようになりました！

4) ネット売上額の増加

【2022年度目標】　基準年度売上額から23％増加
【中期目標（2022～2024）】　基準年度売上額から30％増加

目標達成！

【取組結果】

- 2019年度実績：3,000 万円
- 2022年度目標：3,700 万円
- 2022年度実績：4,500 万円
- 達成率：125%

「楽しいエコ・儲かるエコ」を進めよう！

業務多忙，ミス多発，モチベーション低下，業績不振・・・

改善提案

業績アップ

作業効率改善，“ゆとり”創出，モチベーションアップ，待遇改善，優秀な人材の確保・・・

■ 地域貢献活動関連

1)「NPO環境ネットやまがた」主催行事等への参加協力
【2022年度目標】年2回以上　【中期目標（2022～2024）】年2回以上
2) 会社周辺の清掃・美化活動（草取り・ごみ拾い・みどりのカーテン等）
年2回（6月，10月）

「山形県地球温暖化対策推進事業所登録制度」への登録など，NPO環境ネットやまがた（山形県地球温暖化防止活動推進センター）が主催する事業への参加協力しています。また，毎年，みどりのカーテンや植栽を行い，年２回，会社周辺の清掃活動などを実施しています。

NKC Next Kankyou Consultant
NKC通信
ネクスト環境コンサルタント㈱
2023年2月27日発行
vol.32

脱炭素 in 山形 経営セミナーに参加してきました

2023年2月に、山形県地球温暖化防止活動推進センター 主催「令和4年度 脱炭素経営セミナー in やまがた」に参加してきました。2050年までのカーボンニュートラル実現に向けて、我々が取り組むべきことについて学んできました。

ネクスト園芸部 ◆エコアクション21◆

本年度もエコアクション21の活動に取り組んでいます。今年度も外部での活動は控え、内部での活動に力を入れております。

玄関先などの花壇
今年も多くの花々が弊社を彩っています。

グリーンカーテン
今年度は朝顔やゴーヤで挑戦しました。

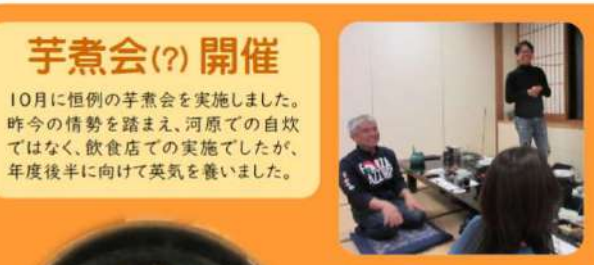
3－3．2023年度の環境経営目標

環境目標項目		基準年	実績値	環境目標（2023年4月～2024年3月まで） 環境目標の内容	目標値	備　考
二酸化炭素排出量	■総二酸化炭素排出量	2014	335 kg-CO2／100万円	売上百万円あたりの排出量を基準年度実績値から40%削減	201 kg-CO2／100万円	単位：kg-CO2／売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする
	■電力使用	2014	327 kWh／100万円	売上百万円あたりの使用量を基準年度実績値から30%削減	229 kWh／100万円	単位：kWh／売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする
	■化石燃料消費					
	ガソリン	2014	80 リットル／100万円	売上百万円あたりの使用量を基準年度実績値から50%削減	40 リットル／100万円	単位：リットル／売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする
	※製品・サービス関連目標	2014	13.2 km/L	基準年度燃費を18%向上	15.6 km/L	単位：km/L
廃棄物排出量	■一般廃棄物（対象：可燃ごみ）	2017	3.2 kg／100万円	売上百万円あたりの排出量を基準年度実績値から40%削減	1.9 kg／100万円	単位：kg／売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする
	■産業廃棄物	2020	2.1 kg／100万円	売上百万円あたりの排出量を基準年度実績値から15%削減	1.79 kg／100万円	単位：kg／売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする ※汚泥・重金属廃液・有機溶剤廃液・廃酸・廃アルカリは対象外
総排水量	■上水使用量	2021	539 m^3	水道使用量を基準年度実績値から5%削減	512 m^3	単位：m^3 ※東北警備使用分も含める
化学物質	■化学物質（PRTR該当）	—	—	薬品管理規程に基づく適正管理	—	長期的にはPRTR該当物質を使用しない方向で進める
自主設定項目（製品サービス関連）	■環境情報の発信			社内報の発行	4回	A4両面刷り1枚程度を想定
	■採算性の向上「分析内製化による外注費の削減及び機器自動化による労働時間削減」	2022	4,179 円／h	「時間当たり限界利益値※」を基準年度比2%増	4,263 円／h	※限界利益＝（売上高―外注費等変動費）÷総労働時間 ※2022年度実績は労働者数の増加分を補正
	■改善提案件数	—	—	1人毎月1件以上	月1件以上	※環境に限らずなんでもOK
	■ネット売上額の増加	2022	325 件	基準年度受託件数から10%増	358 件	単位：件数 「産廃・土壌ドットコム対象」
地域貢献活動	■環境保護団体への支援・協力	—	—	「NPO環境ネットやまがた」が主催する行事等への協力	—	参加状況を記録（環境教育）
		—	—	環境関連団体等が主催するイベント・研修会等への参加	年2回以上	
	■会社周辺の清掃活動・美化活動	—	—	会社周辺のゴミ拾い（グリーンカーテン）	6月、10月（夏季）	社内報等で紹介する

“飲み”ゆーケーション復活

芋煮会(?) 開催

10月に恒例の芋煮会を実施しました。昨今の情勢を踏まえ、河原での自炊ではなく、飲食店での実施でしたが、年度後半に向けて英気を養いました。



4．環境経営計画の取組結果並びに次年度の取組内容

4－1．2022年度環境経営計画と取組結果

＜評価判定の目安＞
〇…実施済。80%以上の社員が取組んでいる。80点以上の満足度である。
△…一部未実施。50～80%の社員が取組んでいる。50～80点ぐらいの満足度である。
×…未実施。50%未満の社員しか取組んでいない。50点未満の満足度である。（是正処置の対象）

環境目標	活動・取組項目	活動の具体的内容（どのように）	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	備考、是正処置の必要性等
二酸化炭素排出量の削減	■消費電力の削減	■室温は、暖房期20℃、冷房期28℃で管理	－	〇	－	〇	
		■サーキュレーターを稼働させ、室内温度差をなくす	－	〇	－	〇	
		■使用していない部屋のエアコンはOFF	－	〇	－	〇	
		■定期的にエアコンのフィルターを清掃	〇	－	〇	－	
		■エアコンを使用しない時期はブレーカーを切る（コンセントを抜く）	〇	－	〇	－	
		■不要な照明は消灯	〇	〇	〇	〇	
		■クールビズの推進（Tｼｬﾂ・ﾎﾟﾛｼｬﾂ着用）	－	〇	－	－	
		■ウォームビズの推進（プラス一枚で暖かく）	－	－	〇	〇	
		■パソコンは省エネモードで使用	〇	〇	〇	〇	
		■トイレの暖房便座の使用禁止（温水の温度設定は「低」）	〇	〇	－	－	
		■電力使用量の掲示（「見える化」の推進）	－	－	－	〇	掲示板
		■分析機器の効率運転（ｳｫｰﾑｱｯﾌﾟ時間の短縮・ﾀｲﾏｰ利用）	〇	〇	〇	〇	
		■分析条件の見直し（前処理温度、処理時間等）	〇	〇	〇	〇	
		■直射日光を遮る工夫（ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ）	〇	〇	〇	〇	
		■直射日光を遮る工夫（緑のｶｰﾃﾝ）	〇	〇	〇	－	
	■ガソリン・軽油使用量の削減 ※製品・サービス関連目標	■エコドライブの教育研修	－	〇	－	－	※可能であれば実地研修
		■エコドライブ自己評価を実施（チェック表による）	〇	〇	〇	〇	
		■燃費・走行距離の把握（車両日報の記入）	〇	〇	〇	〇	
		■5000km（6ヶ月）ごとにオイル交換、10000km（1年）ごとにエレメント交換	〇	〇	〇	〇	
		■適切な時期でのタイヤ交換	〇	－	〇	－	
		■適切な空気圧の維持	〇	〇	〇	〇	
		■エコタイヤの導入	〇	〇	〇	〇	
		■不要な荷物を乗せたままにしない	〇	〇	〇	〇	
		■業務の効率化（車両運行ルートの管理）	〇	〇	〇	〇	
		■計画的な低燃費車両への入れ替え	－	－	－	－	
	■その他化石燃料の削減（LPG）	■必要最低限の温度で給湯	〇	〇	〇	〇	
		■夏期は使用しない（ガスの元栓を締める）	－	〇	－	－	
廃棄物排出量の削減と適正管理	■一般廃棄物の削減（リサイクルの推進）	■分別のルールの周知徹底	〇	〇	〇	〇	
		■不要な資料・カタログ等の辞退・返却	〇	〇	〇	〇	
		■コピー用紙削減（両面コピー・裏紙利用の徹底）	〇	〇	〇	〇	
		■一般廃棄物の排出量記録	〇	〇	〇	〇	
		■社内の整理整頓	〇	〇	〇	〇	
	■産業廃棄物の適正管理	■保管場所の管理（安全衛生状態も含む）	〇	〇	〇	〇	
		■実験室廃液等の廃棄保管ルールの周知・運用管理	〇	〇	〇	〇	
		■マニフェスト・契約書類の管理	〇	〇	〇	〇	
		■委託先の状況確認	－	－	－	－	未確認委託先を対象
		■重金属廃液量の削減方法の検討と試行	〇	〇	〇	〇	継続的に検討中
水	■水道使用量の削減	■「節水」の監視強化	〇	〇	〇	〇	
		■その他節水対策機器に関する情報収集	〇	〇	〇	〇	
化学物質管理	■化学物質の適正管理	■SDSの整備と活用（電子版でも可）	〇	〇	〇	〇	
		■主にPRTR該当化学物質の適正利用基準の管理運用	〇	〇	〇	〇	
		■化学物質を使用しない分析方法の検討	〇	〇	〇	〇	継続して情報収集
		■毒劇物の適正管理（使用量の把握と残量確認）	〇	〇	〇	〇	
	■不要薬品類の撤去	■不要薬品類の選別と撤去（処理業者への引き渡し）	－	－	－	〇	
グリーン購入	■グリーン購入	■グリーン購入ネットワーク（GPN）認定商品（エコ商品）の選定	〇	〇	〇	〇	
		■事務消耗品のエコ商品購入率の把握	〇	〇	〇	〇	
		■車両・設備・機械等購入時の環境配慮	〇	〇	〇	〇	

（製品サービス関連）自主設定項目	■社員のスキルアップ	■技術研修会の情報収集	○	○	○	○	
		■研修成果報告会等の実施	○	○	○	○	
		■業界団体が実施する精度管理事業への参加と目標水準の維持	－	－	－	○	
	■環境情報の発信（社内報の発行等）	■情報の収集・原稿等の依頼（社内・社外）	○	○	○	○	
		■社内報の発行	○	○	○	○	
		■自社HP等の更新	○	○	○	○	
	■採算性の向上	■残業時間の削減（ノー残業デー）	○	○	○	○	
		■分析機器の自動化推進	○	○	○	○	新規取組
		■分析業務の多能工化	○	○	○	○	
	■改善提案件数の増加	■毎月1件以上の改善案の提出	○	○	○	○	
		■表彰制度の創設	○	○	○	○	
		■提案の実行とさらなる改善	○	○	○	○	
	■ネット売上額の増加（産廃・土壌ドットコム）	■ネット検索件数チェックとHP内容の見直し	○	○	○	○	
		■ネット広告(PPC広告)の適切な運用と改善	○	○	○	○	
		■定期顧客への訪問による新規分析案件の拡充	○	○	○	○	
地域貢献活動	■環境保護団体への協力	■「環境ネットやまがた」主催の活動・セミナーへの参加	○	○	○	○	
	■会社周辺の清掃活動	■周辺道路のごみ拾い、草刈りなどの実施	○	－	○	－	
	■敷地内緑化の推進	■フラワーポットに花を植える	○	○	－	－	

認証取得以降８年目を迎え省エネやゴミの分別の取組に関しては，ほぼ定着しています。また，業務多忙が続く中，環境情報の発信（社内報発行：年４回）や新規取組として設定した改善提案についても，様々な改善提案が提出され，業務の効率化だけでなく，モチベーションアップにも役立っています。

４－２．2023年度以降の取組内容

2022年度の取組を継続するとともに，自主設定項目として設定した次の取組について，経営上の課題とチャンスを意識しつつ，さらに強化を図っていく。

■採算性の向上：外注業務の削減・残業時間の削減・分析業務の自動化推進
■改善提案件数の増加：表彰制度の実施
■ネット受託件数の増加：検索件数チェック・HPの更新・ネット広告の適切運用

5．環境関連法規等の遵守状況，訴訟等の有無

５－１．該当する環境関連法規等とその遵守状況

2023年6月1日付で遵守状況を確認した結果は，下記のとおりでした。

■廃棄物処理法
マニフェスト管理ならびに実績報告等，遵守状況に問題はありませんでした。
（2021年度のマニフェスト発行実績については，2022年5月30日に報告済）

■フロン排出抑制法
業務用エアコン・冷蔵庫等対象機器について，３カ月ごとの簡易点検を実施し，記録しています。また，増改築に伴い新たな対象設備機器類のリストアップを行いました。今後適切に管理を行っていきます。

■水質汚濁防止法（特定施設：スクラバー・流し台）　■下水道法
事故等の発生はありませんでした。また，放流水については月１回水質検査を実施して異常の有無を監視しています。

■毒劇物取締法
紛失防止措置等の要求事項に問題はありませんでした。事故等の発生もありません。

５－２．訴訟等の有無

環境面での訴訟，行政処分等は，創業以来一度もありません。
また，外部からの環境に関する苦情も創業以来，一度もありません。

6．代表者による見直しの結果（経営者のコメント）

2020年度から経営の本質に関連する目標として，①採算性の向上，②改善提案件数，③ネット売上額）を加え，３年目の取組みとなります。①については，2022年度の採算性指標値が前年度比2.3％向上しました。目標（5%向上）には届かなかったものの，大いに評価したいと思います。また，②についても本レポート上で紹介しているとおり，有効に機能しており，③については，目標達成率122%となり，十分に満足できる結果となりました。

2022年度の売上額（本社のみ）は，2021年度比12.7%の増となり，年々増加の一途をたどっていることもあり，売上高あたりの環境負荷については，年々減少しているものの，排出量そのものは増加の一途をたどっています。今後は，脱炭素化に向けて，長期的な展望に立ち，計画的に推進していく必要があると思っています。

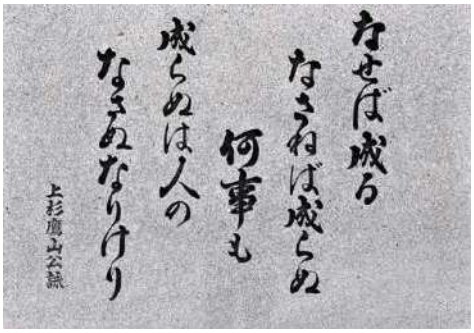
環境への取組みを積極的に推進していくには，経営の安定化が前提条件となります。分析の内製化により，外注経費を削減すること，分析の自動化を推進することにより，残業時間の削減を図ることなど，具体的な数値目標と計画を掲げ，これからも経営効率の向上に向けた取組みを進めていきます。

また，取組のもう一つの柱と位置付けている環境コミュニケーションの推進（社内報の発行）については，業務多忙の中，予定通り4回発行することができました。私たちの仕事は，お客様の環境管理のお手伝いをする仕事であり，「正確な情報をなるべく安価に提供する」ことが社会的な使命と考えています。業務量が増加して，エネルギー消費が増加することは，ある程度，やむを得ないこととして，その分，お客様の環境負荷やリスクの削減につながるような情報を積極的に発信していきます。地域の環境保全に貢献していることを自負しながら，仕事も省エネも「楽しく」をモットーにエコアクション２１の活動を継続してまいります。

代表取締役　　武田誠一郎

＜EA21環境経営システム変更の必要性と主な変更指示内容＞

■環境経営方針：継続
■環境経営目標：取組項目については現状維持でよい。
基準年度ならびに削減率などについては，昨年度の実績などを踏まえ，適宜見直すこと。
■環境経営計画：基本的には継続で良いが，より実効性の高い内容に適宜入れ替えること。
■実施体制：継続（人事異動等があれば適宜変更すること）
■その他：同じ建物に同居する東北警備保障と連携して，効果的な取り組みを推進すること。地域貢献活動関連目標としてSDGｓを意識して環境ＮＰＯの支援と協力の強化を図ること。経営効率を上げ，売上高あたりでの目標の達成を目指すこと。また，計画的に環境教育を実施すること。



＜アクセス＞

かねたん

米沢市マスコット
キャラクター

環境経営レポートを読んで
いただき，おしおしな
（ありがとう）！
ぜひ，米沢においで下さい。
お待ちしてま～す。

おせんちゃん

米沢市マスコット
キャラクター

この環境経営レポートは，ご希望の方に差し上げています。ご希望の方は，弊社窓口でお申し出いただくか，下記宛ご連絡下さい。また，当社ＨＰ（http://www.next-enviro.co.jp），エコアクション２１中央事務局のＨＰ（http://www.ea21.jp）でもご覧いただけます。

〒992-0119　山形県米沢市アルカディア1丁目808番地17
ネクスト環境コンサルタント株式会社
TEL：0238-29-0025　FAX：0238-29-0015